

令和6年度 江戸川区立第二葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	じょうぶな子 思いやりのある子 考える子 やりぬく子 ＊重点：自ら進んで取り組む		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りのもてる学校 自分から進んで確かな学力、豊かな心、健やかな身体を身に付け高めようとする子ども より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師
前年度までの本校の現状	成果	・素直で思いやりのある子どもたちが多く ・安心で安全な学校づくりに向けた取組を進めることができた ・積極的な情報発信に努めることができた ・教職員が連携・協力しながら教育活動、学校運営を展開することができた	課題	・一人一人の課題に応じて基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組を充実させる ・読書活動の充実を進める ・不登校や配慮が必要な児童等への対応をより組織的に取り組んでいく ・学校と家庭との連携・協働をより一層推進する ・児童数、学級数増加への対応を適切に進める

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○自ら進んで学ぶ態度の育成	・習熟度別学習、教科担任制、交換授業等の実施 ・1人1台端末の効果的な活用	・進んで学習しようとしているという児童90%以上 ・授業の工夫がされているという教員90%以上	B		B	・授業がわかりやすいという児童は91% ・授業の工夫がされているという教員は89% ・教科担任制をはじめ教職員が連携した授業が進んでいる	B	・多くの子どもたちが教職員の工夫や努力を感じているということを評価したい ・チームワークも大切にしながら教育の充実に取り組んでほしい					
	○基礎学力及び学習習慣の定着	・区、国の学力調査の活用 ・全校一斉朝学習、放課後補習の実施 ・幼・保、中との連携	・基礎的な力を身に付けているという保護者85%以上 ・学習規律が徹底されているという教員85%以上	B		B	・勉強がわかるようにがんばっている児童は82% ・学習規律が徹底されているという教員は77% ・学力調査の結果は向上傾向であった	B	・自分ではがんばろうとする意欲を育てることはなかなか難しいと思うが、引き続き取り組んでほしい ・学力調査等の結果に表れたということは評価したい					
	○読書科の更なる充実	・探究的な学習（調べる学習）の推進 ・朝読書及び毎週30分間の読書活動の実施	・本をよく読むという児童65%以上 ・読書科の学習が計画的に行われているという教員90%以上	C		C	・本をよく読むという児童は53% ・読書活動が充実しているという教員は86% ・夏に調べる学習に取り組んだ児童も多い	C	・学校だけのたらしきかけ、取組などでは限界があるのではないかと ・家庭、地域の取組や大人の姿勢も大きく影響するのでは					
体力の向上	○自らすすんで体力を高めようとする態度・意欲の向上	・毎週30分間の全校運動遊び・元気アップタイムの実施 ・1人1台端末の活用	・体力を高めようとしているという児童90%以上 ・体力向上に向けた活動が充実しているという教員85%以上	B		B	・運動をがんばっているという児童は85% ・体力向上の活動が充実しているという教員は95% ・計画に沿って取組が順調に進んでいる	A	・運動できる場や機会がどうしても限られたり個人によって大きく異なったりする ・学校としてのいい取組は評価したい					
	○自らすすんで健康・安全な生活を送る力の向上	・歯の健康にかかわる取組の推進 ・多様な給食の実施	・健康に気を付けているという児童90%以上 ・保健指導が適切だという教員90%以上	A		A	・健康や安全に気を付けているという児童は90% ・保健指導が適切だという教員は100% ・大きな事故等はない	A	・大きな問題や事故がなく学校が運営されていることに安心している ・家庭教育を補っていただいている部分が多くあると思う					
教育の実現に向けた共生社会の推進	○交流・共同学習の推進	・おおぞら学級の指導の充実 ・通常の学級とおおぞら学級の多様な交流・共同学習の推進	・多様な交流・共同学習が進められているという教員80%以上	A		A	・多様な交流・共同学習が進められているという教員は95% ・特別支援学級の児童が通常の学級の授業に参加する例が大きく増えた	A	・子どもたちが仲よく、元気に過ごしていることとらえている ・こうした取組をさらに継続・発展させてほしい					
	○個に応じた指導の充実	・不登校対策委員会を中心とした支援の充実 ・巡回指導をはじめとする人材、資源等の活用	・配慮を要する児童への支援が適切だという教員80%以上	B		B	・配慮を要する児童への支援が適切だという教員は98% ・組織的な対応を進めている	A	・担任だけでなく教職員のチームワークで対応されていることを評価したい					
不登校・いじめの実践	○健全育成の推進	・QUTテストや各種アンケートによる児童の実態把握とそれに基づく指導の充実 ・不登校対策委員会を中心とした支援の充実	・いじめや不登校解消の取組が組織的に行われているという教員90%以上 ・子どもは安心して学校に通っているという保護者95%以上	B		B	・いじめや不登校解消の取組が組織的に行われているという教員は98% ・不登校児の別室指導やバーチャルの活用などさまざまな方策を進めている	B	・不登校の子どもたちが学校など何らかの形でかわりをもちながら、自分らしく成長していくことを願っている ・子どもの人間関係は難しい側面もあると思うが、引き続きいいねに取り組んでほしい					

と対応の充 学校（園）の地域社会に開かれた実践 教育の特色ある展開	○豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実 基本的な生活習慣の系統的な育成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいという児童90%以上 当番や係をしっかりとやっているという児童90%以上 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいという児童は8.6% 当番や係をしっかりとやっているという児童は9.2% 自主性の育成を進めている 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を自分の力で果たしていけるような子どもたちであってほしい 学校が楽しいという子どもが10.0%であってほしい 					
	○自校の取組の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校のホームページの毎日の更新 全校保護者会、学校説明会等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がわかりやすく伝えられているという保護者90%以上 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを毎日複数回更新し続けている ペーパーレスが定着し、オンラインでこまめに発信している 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをはじめ積極的に情報を発信していただいていることが、保護者の安心、地域の信頼につながっている 					
	○安心・安全な学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな災害等を想定した訓練の実施 食物アレルギーへの対応を含めた事故防止の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気を付けて生活しているという児童90%以上 防災、防犯等の取組が適切に行われているという保護者90%以上 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気を付けて生活しているという児童は9.1% さまざまな訓練を計画的に進めている アレルギー対応を含め大きな事故は起きていない 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体、命を自分で守る力を育てるという学校の方針は、現代においてとても大切である 地域との連携がさらに進んでいくことを期待する 					
	○家庭、地域とともに子どもを育てる教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 幼、保、中との多様な交流の充実 ふるさと葛西、江戸川区について学ぶ機会の充実 P.T.Aやおやじの会によるイベントの再開・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者等との連携が進められているという教員80%以上 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者等との連携が進められているという教員は100% P.T.A、おやじの会の活動も積極的に展開されている 	A	<ul style="list-style-type: none"> P.T.Aやおやじの会の精力的な取組を高く評価したい さまざまな考え方はあるが、子どもたちの笑顔を増やすという思いはみなさんと共有したい 					
	○教員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人のニーズに応じた研究・研修の推進 若手教員の組織的な育成 	<ul style="list-style-type: none"> 資質・能力の向上に努めているという教員90%以上 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 資質・能力の向上に努めているという教員は100% 計画的な育成を進めている 	A	<ul style="list-style-type: none"> 若い教職員も多い中、育成の負担もあると思うが、重要なことだと受け止めている 					
	○働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 会議等の効率化、組織改革の一層の推進 ペーパーレス化の一層の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員の月残業時間50時間以下 時間外勤務の削減に努めているという教員90%以上 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の削減に努めている教員は9.0% 残業時間は削減傾向にである ペーパーレス化は定着した 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の負担軽減は必要なことだと認識している 家庭、地域との連携のあり方という視点からも働き方改革を考えていきたい 					